

こんにちは。FOS2016の磯村真由子です。

2022年はポストクの自由さと楽しさを思い切り謳歌できた一年であったと同時に、その自由さゆえ迷うことも多く精神的に大変であった一年でした。

この研究室に来て始めたプロジェクトが、ほぼ完成の形が見えて論文執筆にとりかかったと同時に残りの1年ちょっとをどう使うか？と考えるようになりました。はじめは新しいプロジェクトを始めようと考え、いくつかのアイデアを試すことに専念しましたが、同時にもう近くに迫っているPIポジションへの出願に関しても本格的に取り組まなければいけないと気づかされました。そこで、出願書類のメインであるプロポーザルについても同時に考え始めると、マルチタスクが苦手な自分には現在の論文の仕上げ・新しいプロジェクト・出願書類と3つのタスクをこなすことが大きすぎる負担となり、そのストレスで軽いパニック状態に陥ってしまいました。これではダメだとラボの同僚やボスに色々と相談したところ、話し合いの中で優先順位をはっきりとさせることが出来て、またその対話のなかで自分の強みを知ることが出来たり、自分から見ると何の問題もなく仕事をこなしていたと思っていた同僚やボスも、昔同じように悩んでいたという事を知り、自分の殻に閉じこもらずに素直に今の状態を打ち明ける事の大切さを感じました。

また30代になり、自分の健康状態を積極的に管理できるようになる事の重要性を感じました。20代ではある程度いい加減でもなんとかかなった睡眠・運動・食事が、今はこれらすべてにおいてしっかりと管理されていないと、だんだんと疲労やストレスが溜まり、ある時に爆発して、回復にたくさんの時間を要するようになってしまいました。このように、博士課程まではがむしゃらで来たところが、だんだんと自分のスタイルを確立して最もよいパフォーマンスをあげられるような工夫が必要になってきているのだと感じた2022年でした。

研究室のイベントでいうと、私の研究室では毎年はじめの方のグループミーティングでPaper of the Yearというものを行います。これは、2022年の主要ジャーナルに出た有機化学すべての論文すべてを洗い出し、読み、その年の一番の論文を決めようというイベントです。今年は1382報の論文が候補として出され、そこから各々がミーティングまでにTOP5を投票、かつその5報についてのディフェンスを用意します。ミーティング当日はそれらの準備をもとに徹底的にディスカッション、最終的に多数決でNo.1論文を決めます。時間がかかり多くの準備を必要とするイベントですが、個人的これはとても有意義だと思っていて、今年どんな面白い論文が出たかを再確認できるのはもちろんのこと、今年の流行った分野やこれから来そうな分野など、たくさんの論文を集中して読むことで今の有機化学界を俯瞰して見る事が出来ると思うからです。

2023年は、いよいよ次のポジションに向けて就職活動が本格的になると思われる年です。今の恵まれた環境に感謝しながら楽しむことを目標に頑張っていこうと思います。

この様な状況の中、対面でほかの奨学生と交流が図れるようになったことは私にとって本当に有難く、そのような機会を積極的に作って下さった船井財団の皆さんの日々のご支援に、この場をお借りして改めまして心より感謝いたします。